

大分県PTA



はぐく美

発行所

大分市大字下郡496-38  
大分県教育会館2F  
大分県PTA連合会  
☎(097)556-9055

責任者  
足田 啓二

印刷所  
大分市下郡3154の22  
九州凸版印刷株式会社



2-3 第27回 大分県PTA研究大会 別府市大会



足田啓二県P連会長は、1月23日(水)、工藤利明県教育長に対し、平成31年度における「中学校3年生学力診断テスト」継続実施についての要望書を提出した。



教育長に要望書提出

平成30年度教育問題懇談会

前進するのために

対応力の向上を目指して

平成30年11月9日(金)に、県教委と県P連との「教育問題懇談会」を県庁別館で開催した。懇談会には、県教委から工藤利明教育長他教育次長・関係各課・室から計20名、県P連から足田啓二会長他副会長・理事ら計22名が出席した。各郡市P連・育友会から出された教育課題をもとに意見交換を行い互いの理解を深め合った。(以下内容を抜粋して掲載)

①部活動の今後のあり方について

県は、中学校・高等学校における運動部活動を対象とした「大分県の運動部活動の在り方に関する方針」を策定。本方針は、生徒にとって望ましいスポーツ環境の構築という観点から、①バランスのとれた心身の成長と学校生活を送ることができるようにする ②生徒の自主的・自発的な参加により行われ、学校教育の一環として、合理的にかつ効果的・効率的に取り組む ③学校全体として運動部活動の指導・運営に係る体制を構築する の3点を重視し、部活動が学校の実態等に応じて多様な形で最適に実施

するために、全ての小・中学校をカバーするよう、スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーを配置。学校の教育環境の充実に努め、さらにはスクールロイヤー制度を導入し、法律の専門家から助言・指導を受けることで、学校の対応力の向上に努めている。

県P連はスクールカウンセラー等の配置の重要性を伝え、更なる拡充を希望するとともに、先生の転任や進級時における先生間での情報共有の徹底について要請。

親も子も1人で悩むことがないようスクールカウンセラー等の存在や学校への相談窓口等をPTAでも周知、情報共有することが大切だと共通認識した。

②不登校・いじめ・貧困・特別支援教育に関する方向性と取組状況について

いじめについて、被害、加害、どちらも経験がある子どもが全体の8割にも上るとい

う調査結果がある。また不登校について、友人関係、学業不振等とともに、家庭状況もその大きな要因となっている。県は、子どもたちが抱える精神面と家庭の状況に対応



平成30年度教育問題懇談会

貧困について、県は平成28年度に大分県子ども貧困対策推進計画を策定。県教育庁内

自転車乗車時のヘルメット着用的重要性・有効性を子どもにしっかり伝えることは、大人の責任。県は、高校生のヘルメット着用の義務付けも議論していく予定。

③安全・安心対策への取組状況について

自転車乗車事故は、子どもが被害者のみならず加害者にもなる危険性を相互に理解した上で、損害賠償補償付き自転車保険の加入について、引き続き県P連と県とで協働して推進していくことを確認した。

一年を振り返って



県P連会長 足田 啓二

今年度で会長を仰せつかり4年を迎えました。息子の中学卒業に伴い、6月の総会にて退任となります。支えていただきました8万人の会員の皆さんのご協力・ご尽力により感謝いたします。

を迎えました。先人の皆様のご尽力の賜であり、歴史の重みと活動を次の世代へ受け継いでいく重責を感じています。今年も活動を通じて多くの皆様との出会いがあり、つながりができました。子どもたちの笑顔に癒され、笑い、汗を流し、感動した、忘れられない1年となりました。今後P.T.A活動にご理解いただき、各P.T.Aのご活躍、ご発展を心よりお祈りいたします。



県P連副会長 池部 英明

本年度は事業内容の見直しを含め専門部会を再編するなど、県Pにとって変革の年となりました。教育委員会では、県教育委員会との教育問題懇談会を実施するにあたり、部

員(理事)の方々と一緒に各郡市Pの状況を把握し、また全単P会長研修会のグループ討議において、各単Pの意見集約に努め、教育委員会に対して保護者の生の声を届けてきました。今後も懇談会で得た情報等を各P.T.Aや家庭に届け、時代に合ったP.T.Aをみんなで一緒に創っていくことを大切にしていきたいです。



県P連副会長 小野 伸介

県P副会長と研修部長として1年間活動させていただきました。この1年間を振り返りますと、20年以上社会人として仕事はしていますが、社会の知らないことが沢山あり、

改めて学びの必要性を感じましたし、一人でも多くの方にP.T.A活動を伝えていこうと思えました。また、研修部として準備した全単P.T.A会長研修会では、多くの会長に参加いただき、沢山の意見をいただきました。研修部の皆さんを始め、多くの方に協力いただきました学びの場ができましたことに感謝申し上げます。



県P連副会長 母親部長 鄭 加代

これまで理事会で行われていた三行詩一次審査を、母親部会で行うことになりました。親子の互いを思いやる気持ちに涙し、子育てのほっこりエピソードに笑い共感したり

と、どれも素晴らしい作品の中で絞らなければならぬ厳しい審査となりました。募集期間が5月のあわただしい時期ではありますが、今一度、「我が家のルール・家族のきずな・命の大切さ」を話し合



昨日とまったく同じ今日が来て、今日と同じ明日が続いていつの間にか月日は過ぎて…。このような現状維持の毎日、何一つ進歩もなく感動も少ない。何一つ変わらないままの日々は心をつらくし、やる気まで失くしてしま

うのではなからうか。「昨日と違う自分を見つけた」「新しい自分に出会いたい」そう考える昨今である▼先日、バス停で出会ったご婦人は八十九才。スポーツジムからの帰りだと言う。家に機械はあるが一人では元気が出ない。だから週に一度出かけて来るのだと言う。「自分の健康を自分で守る」ためには、自分なりの工夫が必要。気持ち良く出かけるために今日は、三十分程早起きをして段取りをつけ出かけて来たのだと言う▼そこには新しい自分を創り出そうとする姿がある。自分のくらしを模索しようとする姿がある。自分の願いに近づくために様々な角度からアタックすることでマンネリ化した生活からの脱却をはかろうとする強い意志がある▼「昨日と違う自分を見つけたらどうか」の問いに「今日帰ったらすぐに勉強。そして明日は今日よりもちょっとだけ長く勉強するよ」「ぼくは挨拶が苦手なので、明日はがんばってみます」と子どもたち。それを聞いていた若い父親は「僕は今日から、五分だけ早く家に帰り家族と会話をしよう」と語る▼どんな小さなことでもいい。今日と違う自分を見つけることで新しい発見もあり、それは生きる自信にもつながるのではないか。それに合わせて、「絶対にしてはいけない」「普通はこうする」との言葉を禁じてみることも心をやわらかくすることにつながりそうだ。



研究大会 別府市大会

# 生き抜く力を育む

## 第27回大分県PTA研究大会

### 別府市大会

1月27日(日)に開催され、県下より関係者約650名が参加。「湯のまち別府発! 地域の宝に生き抜く力を育むPTA活動」を研究主題に「地域の宝に活力を! 家庭・学校・地域で学び・育てる」つどい「はぐくむ ゆめ」の大会入ロウガンのもと、別府市公会堂をメイン会場に行われた。午前の全体会に続き、午後各分科会会場に分かれて活発な討議が行われた。

#### 全体会

大塚俊夫別府市P連会長の開会宣言に続き、正田啓二県P連会長が「今年度県P連は創立70周年を迎え、歴史の重みを感じると共にこの活動を次の世代へ受け継いでいく重責を改めて感じている。また子どもたちの規範意識の低下が問題視される中、県P連では学校・地域と協働し、社会の変化に対応する子どもの健全育成に取り組んでいる。これにつながる情報収集をして会員の皆さまに発信したい。本日の研究大会がPTA活動に活かされることを期待している。今後の子どもたちの健康やかな成長と各PTAの発展を祈念する」と述べた。



全体会であいさつする 正田県P連会長

次期開催地の佐伯市に大会旗が引き継がれた後、防災アドバイザーの諏訪清二氏が「防災とPTA活動」子どもを安心・安全を求めて」と題し記念講演を行った。自身の体験を交えた貴重な話を参加者は熱心に耳を傾けた。

#### 第1分科会 健全育成・地域活動

##### 体験から学ぶ生き抜く力

「あつたかな家庭や地域の和を育むPTA活動」をテーマに約100名が参加し討議。

##### あたたかい環境に 支えられ取り組む

佐伯市立米水津小学校P増井光也会長は「郷土を愛する『よのうづつ子』の育成、学校と家庭・地域とのあたたかいつながり」と題し発表。「児童数は62名。全世帯の保護者が役員として活動する他に、子どもの育成を協働する『米水津校区協育ネットワーク会議』がある。自治会長、行政関係者等が委員として組織され、地域性を活かした体験学習等を企画。地域全体で子どもを育成する体制を目指



特色ある取組が報告された 第1分科会

している。PTAでは津波に備え、本格的な「米水津地区津波避難訓練」「避難所宿泊体験」を独自に実施。子どもに、自分の判断で最も近い避難地へ避難する訓練と、備蓄されている様々な道具の操作方法等を習得させている。小規模校のため活動する保護者の負担は重い、人とつながる価値は大きい。恵まれた環

境の中で、地域の架け橋となる取組を進めたい」と報告。質疑では、地域性豊かな取組について詳細を求められた。「一人の100歩より 100人の1歩へ」

大分市立王子中学校P安部信彦副会長は「三位一体で育むPTCA活動」と題し発表。「通信機器の誤った使用に巻き込まれる子どもたちが増加する危険性を踏まえ、王子中PTAでは人と人のふれあいを重視した取組を入れている。ごみ拾いなどの地域奉仕活動に加え公民館主催のイベントにPTAと生徒会が実行委員として参加。お菓子作りや工作等の補助を通じて、地域の方や他校の生徒との交流を深めている。また地域住民と接することで、各家庭、学校の指導で不足する部分を補い合い、子どもたちの豊かな

人間性を育むことも目的としている。活動の主役である会員に趣旨を理解してもらい、会員全体で1歩を刻めるようなPTCA活動を今後も展開していきたい」と報告した。質疑では、地域と絡む活動への参加状況やパトロール等についての質問があった。討議では、PTA行事等で地域と協働する事例を挙げながら具体的な意見を交わした。中野吾一県教育庁社会教育課社会教育主事は両校に対し「体験を通して得られる知識は貴重。防災という地域の課題を活動に繋げ、宿泊体験を通して有事の際に役立つ人材の育成に繋がっている。また、地域の中にある縦と横の繋がりを実行委員会の段階から参加することで体験させ、生徒の心の成長に繋がっている。大人が設けた場の中で、多くの学びが子どもたちに根付いていると思う」と指導助言した。

我が家には高校受験を控えた反抗期真っ只中の娘と、何かと手がかる小3のわんぱく息子、そしてわがままな4才の娘がいます。1人が一段落したかと思うとまたスタトという慌ただしい子育てをしてきました。そんな中、今年度ひよんなことからPTA役員をお受けすることになり、色々な方との出会いやお話を伺う機会をいただきました。そして、今までの子どもとの時間をちょっと立ち止まり考えることができました。

#### 第2分科会 人権教育・特別支援教育

##### つながりを大切に 豊かな心を育む

「家庭・学校・地域が連携し、人権を尊重するPTA活動」をテーマに約100名が参加し討議。

##### 共に学び 心を育てる

玖珠町立森中央小学校保護者と教職員の会高井良剛会長は「地域とともに育む 心豊かな森っ子」と題し発表。「本校のPTA活動は、地域と協力して健やかな子どもを育むことを目的に行っている。年に一度、同地区4団体と共催して行う人権講演会は親子、地域の方々が参加する。今年度は『命』をテーマに、いじめや大切な人との別れを経験

された講師が講演。子どもたちへ語りかける『うまれてきたことを喜んでくれる人がいる』などの内容に「子どもとの時間を大切にしたい」と感想が寄せられた。子どもも大人も「誰もがみんな大切な命」に改めて気づき、自己肯定感を高めるきっかけになればと思う。今後も家庭・学校・地域が協力し、この活動を続けていきたい」と報告。

討議では、家庭で子どもをほめる取組が紹介された。

続いて、別府市立青山中学校P園田勝則会長が「ネット

の取組を広報紙に掲載。取組をより多くの人に知ってもらうことが子どもたちを守ることに繋がると考えられる。生徒会が作成した「青中ネット宣言」は抑止効果があったがトラブルはゼロではない。家庭と学校が連携した指導が必要である」と報告。討議では使用時のルールについて意見交換が行われた。

川野和人県教育庁人権・同和教育課主任社会教育主事兼課長補佐(総括)は森中央小学校へ「他人とのつながりやほめ言葉が自己肯定感を育てる。また自己肯定感を高めることが人権意識が高まる活動になるのではないかと話した。また青山中学校には「日々ネットトラブルの中身が変化している中、PTAが行っている実態調査は素晴らしい取組」と思っています。

#### 子どもの 安心・安全を守る

玖珠郡PTA連合会 母親代表 安部 祐佳

お世辞にもいい親とは言えない私です。我が子のことは、通っている学校や園の先生方のほうがよく見て下さっています。先生と子どもの話をすると「ウチの子にそんな一面が!!」と驚かされることばかりです。子どもと向き合っている所、いけないこと、真剣に話ができているのか...というところまで自分自身も気づいていない自分がいます。子どもと向き合うのは気が力があるので逃げていただけなのです。そのことに今さらながら気付く、ポイントと生きていた私です。このような気づきの場をいただいたことに感謝しています。すぐに答えのない子育てです。これで良かったのか...と迷い、こうしていれば何か変わっていたのかなと後悔することも多いです。そうやって私たちが親になっていくのでしょね。今年度の経験を少しでも活かして今という時間を大切に、子どもたちと楽しんで過ごしていきたいと思っています。

玖珠郡PTA連合会 母親代表 安部 祐佳





第27回大分県PTA

情報社会で

第3分科会 家庭教育

温かな眼差しの中で育む

「家庭・学校・地域で親子が共に育ち、家庭教育力を高めるPTA活動」をテーマに約100名が参加し討議。

みんなで育む 子育て親育て

日町立立大神小学校P有徳高隆会長は「家庭・地域とともに育てる。心豊かで元気な大神っ子」と題し発表。「小学校では日町教育委員会が推進する10-7-1運動(夜10時までに寝て朝7時までに起き、茶碗1杯(パン1枚)は朝ごはんを食べよう)に、独自の目標『あいさつをする』、テレビ・ゲームを2時間以内にすることを追加工し10-7-1-2あいさ



質疑のようす

親子で共に成長

還元した。これを長年継続的にを行い、親子で意識して取り組む仕組みを構築した」と報告。討議では、登下校のようすについて意見交換を行った。

竹田市立竹田中学校P佐藤龍太会長は「共に学び、共に楽しもう!!」と題し発表。「PTAでは学校と連携し、各家庭を中心に『メディアに関する5つの取組』を実施。

①1年間の目標を立てよう ②目標を親子一緒に理解し取り組もう ③親子一緒に学習してみよう ④家の中に掲示し自覚を持とう ⑤学期ごとにアンケート調査をして学校と家庭で直見そう

アンケート調査を実施。自覚の問題か、2年生より3年生の方がルールを守るという結果だった。メディアを子どもたちから排除するのではなく、生活の中でうまく共存させていく事が大事だと考えている。生徒と保護者が共に学び、同じ認識を持ちながら成長していきたい」と報告した。討議では、5ヶ条の参考にした原案の紹介がなされた。須藤恵美子県立香々地青少年の家主任社会教育主事は「PTA活動の意義や重要性、家庭教育の役割は、みんなで取り組んで全体をボトムアップさせる事。大神小学校Pは全体が育つ活動をしている」と「安心感」は幼少期に家庭で、中学では友だちが作る。体験は大事だが安心がないと体験はできない。竹田中学校Pは全体で親子も共に学び安心の教育環境が充分にできている」と指導助言した。

第4分科会 ネットモラル・メディアリテラシー

親子で学びを積み重ねる

「ネットモラル・メディアリテラシーを育み、安全・安心を向上させるPTA活動」をテーマに約100名が参加し討議。

親子で取り組む

別府市立別府中央小学校P恒松宗典会長は「子どものネットトラブル防止に向けた、保護者としての第一歩」と題し発表。「本校は毎年ネットモラルの授業を高学年児童と保護者を対象に行っている。PTAでは現状を知るためネット利用率が高まる4、6年生を対象にアンケートを実施した。結果ではネット利用率は平均65%。SNS利用率は平均

急速に変化する環境のなかで

由布市立立間中学校P立川毅会長は「情報化社会の子どもたち2018」取組の中で



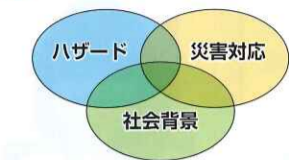
活動を報告する発表者

特に長かった。また、保護者が知らないところで何らかの問題やトラブルを経験していることや、ネット利用時のルールの捉え方にも子どもと保護者で差異が見られる実態が分かった。今回の結果はPTAから保護者へ配布され、学校にも詳細を伝えた。今後、子どもたちの環境や現状を親子で話し合う場を学校やPTAで持たせたい」と報告。

記念講演(講演要旨)

知識は使わんと意味ないな~

防災アドバイザー 諏訪 清二氏



1. 災害の体験から考えたこと

子どもの体験を子どもに伝えることをしたい。子ども目線の体験談は子どもに伝わりやすいと思っている。大人の体験談・教訓を学ばせることも大事だが、自分と同年代の子がどんな体験をしたのかを知ることもすごく大事。東日本大震災から5年目の年に出版された「16歳の語り部」や、石巻の高校生の詩「潮の匂いは」は強いインパクトのあるメッセージ。

2. 災害がなぜ起こる、防災って何? という勉強のこと

災害が発生するメカニズムは次の3つの重なり。ハザード(災害を引き起こすかもしれない自然現象(地震、火山噴火、台風、大雨などの強さ) 災害対応(身を守る、救出救助、避難所運営の悪さ) 社会背景(脆弱) 災害の抑止が防災で軽減が減災。こういうことを全部勉強するのが防災教育。

3. 学校教育に関わっての話 - 学校・家庭・地域をどうつなぐか

防災教育のミニマムエッセンシャルズ(教育用語で最低限教えるべき教材のこと) ハザードを理解する 備えを行う 災害時の対応を行う あいさつで知り合いをたくさん作ると災害が起きた時に助けてもらえるし、逆に知っている人を助けに行ける。日々の生活、地域学習、人権学習、まちの探検、歴史、得意技、福祉学習、夢、それぞれが全部「防災学習」とつながっている。

これからの防災学習・防災管理の視点

- ◆命のたいせつさや思いやり、助け合いの素晴らしさを体験的に伝える。
◆災害時に必要だと思われる知識と技能を学んで使ってみる。
◆災害時の対応マニュアル作成など「防災管理」を徹底する。しかし、マニュアルを超えた事態が起こることを意識し、臨機応変に対応できるようにする。
◆災害時にどうすればいいかという疑問に対して正解はない。情報を集め、話し合い、納得し(納得しなくても)、合意し、行動するプロセスを学習者に体験させる。
◆学校にいる間は、教職員が子どもの命を守り(防災管理)、学校にいないときは自分で自分の命を守り、人を支援できることを育てる(防災学習)。

すわ・せいじ (防災学習アドバイザー・コラボレーター)

1960年、兵庫県明石市生まれ。兵庫県高等学校教員、英語科教諭時代に環境防災科の担当となり防災教育を始める。学校での防災教育を中心に被災地での災害ボランティア活動や若者を支援するイベントの企画、運営に従事。2017年学校を早期退職して現在の活動を開始、海外の防災教育にも関わる。大学・大学院で教えながら、「防災学習実践研究会」を主宰し、実践交流の場をスタート。現場の教職員支援を行っている。

特別分科会 パネルディスカッション

防災教育

防災に関する実践活動について各パネラーが報告

「自然災害に対して、家庭・学校・地域が連携し、子どもの命を守るPTA活動」をテーマに約250名が参加。壇上に、コーディネーター他5名を迎え、パネルディスカッションが行われた。

- コーディネーター 石井布紀子氏 (特定非営利活動法人さくらネット代表理事)
アドバイザー 諏訪 清二氏 (防災学習アドバイザー・コラボレーター)
パネラー 梅岡 桂氏 (別府市立鶴見小P会計) 伊南寿賀氏 (別府市立亀川小P会長) 新宅俊文氏 (別府市立南小P校長) 村野淳子氏 (別府市防災推進専門員)

始めに、各パネラーの学校と別府市から、防災に関する取組について実践発表があった。その内容について、豊富な経験をもとに諏訪氏がアドバイス。救助に行くことで命を落とす二次災害等を例に挙げ、避難場所や訓練方法、救助法には状況に応じて柔軟な対応が求められることを指摘、改善点を挙げた。また訓練だけでなく、運動会の取組の中で意識させる「ちよこつと防災」の考え方も紹介した。諏訪氏は「地域とつながるには防災は効果的な入口。訓練を重ねることで信頼は築かれていく。その過程の中で、子どもは自然と学ぶ。災害は多様。実践につながる一歩を模索してほしい」と呼びかけた。

最後に、会場の参加者を交えて防災に関する取組状況について意見交換を行った。(内容について一部抜粋)と指導助言した。



日P・佳作

大分市立西の台小学校 4年 伊藤 愛梨

一人で飛行機に乗るなんて、とっても不安でたまらない。だけどなぜか、その気持ちがどんどん消えていく。それはきっと久しぶりにお父さんに会えるから。

豊後大野市立千歳中学校 1年 佐伯 晴哉

「ママ本読んで。」妹と弟がいった。ぼくはふとんにもぐってる。でも本当はぼくにも本読んでと言いたい。だからふとんの中でこっそり耳をすます。

小学生・優秀

豊後高田市立観星学園 1年 伊藤 巧

どうしてのちはひとつしかないの それはいのちがたいせつだから

大分市立田尻小学校 4年 南 美咲

「ただいま」とお母さんの声 私にチューをする いくつだと思っているの もう四年生だよ

大分市立大通小学校 3年 中嶋 優

わたしがいるのは、家族のおかげ 当たり前のように当たり前じゃない

大分市立丹生小学校 2年 後藤 咲来

お父さんの命 お母さんの命 2をたすと たいせつなわたしの命

中学生・優秀

佐伯市立直川中学校 2年 甲斐 優人

父と兄の後ろ姿みて ニコニコ笑う母がいる 後ろ頭までそっくり そこまで似なくて良からうにと どこかうれしう

豊後大野市立千歳中学校 3年 松田 奈巳

「行ってきます。」顔見ず私は言うけれど、「行ってらっしゃい。」必ず見送るお母さん。背中にあたる、家族のルール。

佐伯市立直川中学校 1年 甲斐 海暁

「大丈夫」 お母さんからの魔法の言葉

豊後大野市立千歳中学校 2年 佐加良 陽菜

家族の相談役のおばあちゃん なんでも知っていて尊敬する みんなの気持ちをパッと晴らすおばあちゃん。おばあちゃんは家族の太陽だ。

一般・優秀

国東市立武蔵東小学校PTA 難波 祥子

あなたならきっとできると 期待をすれば 子どもは変わる 伸びていく

豊後高田市立観星学園 土谷 千春

ごはんを作り 洗濯をする家事よりも 手をださず子どもを見守ることの方が 簡単そうですとむずかしい

大分市立碩田学園PTA 秦野 清吾

叱って泣かせちゃっても、叱られて泣いちゃっても、 次の朝は笑って「おはよう」

大分市立竹中中学校PTA 田中 美由紀

あなたの笑顔がパワーの源 いつも元気でうれしいな 生まれてきてくれて ありがとう

家庭で話そう！ 我が家のルール・家族のきずな・命の大切さ

日常の中の“特別”を 三行の詩に込めて

三行詩コンクール 大分県最優秀・優秀作品



〔一般の部〕

竹田市立南都中学校PTA 阿南 とも子

やらなくて後悔するより やって後悔しよう それが我が家の合言葉



〔中学生の部〕

大分市立大東中学校 2年 藤本 茉優

最近私は反抗期、自覚はあるのに直せない。口にはだせない「ありがとう」、いつかはちゃんと伝えるから。



〔小学生の部〕

宇佐市立駅館小学校 1年 森本 和愛

ランドセルっておもたいね。いつもわたしをおんぶして歩いてくれたおばあちゃん、もともとおもたかったのかなあ？ おばあちゃんのせなかにだきついて、そっとつたえるありがとう。

最優秀

大分県PTA連合会は、平成30年度「三行詩コンクール」の県内審査を行い、応募総数216点の中から、部門ごとの大分県最優秀作品と優秀作品を決定し、最優秀受賞者の学校で表彰を行い祝福した。優秀作品の中から日P佳作2作品が選ばれ、昨年12月に日本PTA全国協議会により表彰された。

ふるってご応募を!!

三行詩コンクールは「たのしい子育て全国キャンペーン」を推進する日本PTAが募集、表彰を行い、日頃から親子で話し合う大切さを社会全体に呼びかけることを目的としています。2019年度三行詩コンクールの募集は、2019年5月～6月を予定しています。くわしくは日本PTA全国協議会のホームページにも掲載予定です。



注文書

演劇界に大きな花を咲かせ続けてきた市原悦子さんが亡くなられた。舞台や映画で演じた劇中人物は「はまり役」にまでなっており、その円熟した演技に魅了され続けていた。「天才的な俳優だった」「味わい深い声にひきつけられた」など、称賛の声が相次ぎ、名残りを惜しんだ。実は、「俳優」の前に、「銀行員の道」が用意されていた「発送」を怠りなく！

と聞いた。かけがえのない我が子が社会に出て行く「はなむけ」の「人生の注文書」だったのだろうか。市原さんは、それを、「俳優」という「自分の注文書」に塗りかえてしまった。「人間はみな心の中にいつ芽になるか、どう育つかわからない種をいっぱいかかえている存在」(幸田 文) 「人生の注文書」を受けつけずに、この道を登りつめるに到ったきっかけは、何だろうかと思わざるを得ない。子どもの場合であるが、あこがれの人が居たり、自分の興味・関心にふれたりして、それが、夢や希望に強くなったりしやすいと言われている。「自分らしい」芽が出る種をかかえているならば、「子どもへの注文書」発送の際には、興味・関心・夢・希望がキーワードになるだろう。

編集後記

「もっと冒険しておけば良かった」人生で後悔している事を問う調査で90歳以上の9割がそう答えたという。惑星探査には程遠いが、新しい店でも覗いてみようかな。(O) 今春、娘の9年間の義務教育が終わる。自ら考え行動できるような背中を押してきた私の子育て。正解なのか自問自答しながらの家庭教育はまだまだ終われない。(I) 購入して3年、家のミモザがようやく花をつけた。同時に私の鼻センサーが花粉の襲来をキャッチする。ちよっと贅沢なティッシュで鼻をかむことを自分に許す春の訪れ。(I) 30年前、大好きな恩師から教わった「継続は力なり」この言葉を胸に刻み編集作業。文章が思いつかない時は、一筋の光を求めて辞書を片手に悩む。只今、修行中。(K)

1年間の成果をお待ちしています

※応募対象※ 県下の小・中・特別支援学校PTAで年3回以上定期発行した広報紙。(号外を除く)(平成30年4月から平成31年3月まで発行分)審査対象は小学校と中学校の2部門とする。 「第42回大分県PTA広報紙コンクール出品についてのお願い」は各郡市PTA連合会事務局を通し単位PTAに送付しています。

第42回 大分県PTA 広報紙コンクール 締切 平成31年3月22日(金) 審査日 平成31年4月4日(木) 表彰式 平成31年4月16日(火)

三井住友海上の安心 GK 平成31年度の「学生・子ども総合保険」の募集がはじまりました。補償内容を一新し、充実してご案内しています。パンフレットをよくご覧になり、コースを選択して加入期間中にご加入ください。通常加入締切日 3月29日(金) (取扱代理店 共同募集) はぐく美保険サービス株式会社 フリーダイヤル 0120-56-8993 MS 大分中央株式会社 TEL 097-538-8880 事故の報告、受付は 「三井住友海上事故受付センター」 フリーダイヤル 0120-258-189

大分県PTA連合会 学生・子ども総合保険のご案内 平成31年度 募集期間 2019年4月1日(金)から2020年4月1日(金)まで 補償内容 24時間補償 29歳未満 保険料が負担軽減 大分県PTA連合会